

令和3年度に発生した蜜蜂の被害

(別表2)

発生時期	発生状況	都道府県が考える原因	実施した対策
令和3年4月中旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害箱数 150箱</li> <li>・1箱当たりの死虫数 約20,000匹</li> <li>・被害規模は巣箱により異なる (最大規模の被害: 10箱/150箱)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地は住宅と農地が混在する地域であるため、原因の特定は困難であり、農薬が原因である可能性は否定できない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HP等の媒体を活用し、幅広く情報を周知</li> </ul>
令和3年5月上旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害箱数 20箱</li> <li>・1箱当たりの死虫数 約500匹</li> <li>・被害規模は全ての巣箱で同程度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目視調査の結果、外部寄生ダニや蜂病による症状とは異なると推定されたため、原因が農薬である可能性はあるが、断定はできなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関への被害軽減対策の周知</li> <li>・情報共有の徹底</li> </ul>
令和3年5月上旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害巣箱 26箱</li> <li>・1箱あたりの死虫 約8,000匹</li> <li>・被害の程度は全ての巣箱で同程度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害発生時、周辺で農薬が使用されていた可能性があることから、被害の原因が農薬である可能性は否定できない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害発生地域のJA及び市町あてに、農薬の使用にあたっては、農薬使用者と養蜂家が情報交換を行うよう、農薬散布時期の直前に指導文書発出</li> </ul>
令和3年5月上旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害巣箱 30箱</li> <li>・1箱あたりの死虫 約8,000匹</li> <li>・被害の程度は全ての巣箱で同程度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害発生時、周辺で農薬が使用されていた可能性があることから、被害の原因が農薬である可能性は否定できない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害発生地域のJA及び市町あてに、農薬の使用にあたっては、農薬使用者と養蜂家が情報交換を行うよう、農薬散布時期の直前に指導文書発出</li> </ul>
令和3年5月中旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害巣箱 40箱</li> <li>・1箱あたりの死虫 約8,000匹</li> <li>・被害の程度は全ての巣箱で同程度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害発生時、周辺で農薬が使用されていた可能性があることから、被害の原因が農薬である可能性は否定できない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害発生地域のJA及び市町あてに、農薬の使用にあたっては、農薬使用者と養蜂家が情報交換を行うよう、農薬散布時期の直前に指導文書発出</li> </ul>
令和3年5月中旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害巣箱 40箱</li> <li>・1箱あたりの死虫 約10,000匹</li> <li>・被害の程度は巣箱によって異なる。 (最大規模の被害: 5箱/40箱)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害発生時、周辺で農薬が使用されていた可能性があることから、被害の原因が農薬である可能性は否定できない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害発生地域のJA及び市町あてに、農薬の使用にあたっては、農薬使用者と養蜂家が情報交換を行うよう、農薬散布時期の直前に指導文書発出</li> </ul>
令和3年5月下旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害巣箱 40箱</li> <li>・1箱あたりの死虫 約10,000匹</li> <li>・被害の程度は全ての巣箱で同程度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害発生時、周辺で農薬が使用されていた可能性があることから、被害の原因が農薬である可能性は否定できない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害発生地域のJA及び市町あてに、農薬の使用にあたっては、農薬使用者と養蜂家が情報交換を行うよう、農薬散布時期の直前に指導文書発出</li> </ul>
令和3年5月下旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害巣箱 40箱</li> <li>・1箱あたりの死虫 約10,000匹</li> <li>・被害の程度は巣箱によって異なる。 (最大規模の被害: 10箱/40箱)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害発生時、周辺で農薬が使用されていた可能性があることから、被害の原因が農薬である可能性は否定できない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害発生地域のJA及び市町あてに、農薬の使用にあたっては、農薬使用者と養蜂家が情報交換を行うよう、農薬散布時期の直前に指導文書発出</li> </ul>

発生時期	発生状況	都道府県が考える原因	実施した対策
令和3年6月中旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>被害箱数 3箱</li> <li>1箱あたりの死虫数 約1,000匹</li> <li>被害の程度は全ての巣箱でほぼ同じ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>被害の状況から農薬の散布による暴露が原因の可能性が高いと考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>蜜蜂被害軽減対策の通知及びチラシによる対策の周知</li> <li>水稻農家と養蜂家に対する情報提供等の徹底</li> </ul>
令和3年7月下旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>被害箱数 20箱</li> <li>1箱あたりの死虫数 約3,000～4,000匹</li> <li>被害規模は巣箱により異なる(最大規模の被害: 15箱/20箱)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>周辺ほ場で農薬散布が行われていたことから、農薬への暴露による斃死の可能性が高いと考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間の防除スケジュール、農薬の種類及び使用予定日の情報提供(市町村→養蜂家)(※人手不足や車両の準備ができないなどにより、適期に巣箱を移動しきれなかった。)</li> </ul>
令和3年7月下旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>被害箱数 70箱</li> <li>1箱あたりの死虫数 約10匹</li> <li>被害規模は全ての巣箱で同程度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現地確認では、農薬以外の原因を示す異常は認められなかったが、被害発生時期に付近での農薬散布は確認されていないため、農薬が原因か否かは判断できなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関への被害軽減対策の周知</li> <li>情報共有の徹底</li> </ul>
令和3年8月上旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>被害箱数 5箱</li> <li>1箱あたりの死虫数 約4,000～5,000匹</li> <li>被害規模は巣箱により異なる(最大規模の被害: 3箱/5箱)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>被害の状況から、ハチ毒性の高い物質に暴露した可能性が考えられるが、原因は特定できず、被害の原因が農薬である可能性を否定できない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発生市町村内の農家に巣箱位置マップを每户配布</li> </ul>
令和3年8月中旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>被害箱数 70箱</li> <li>1箱あたりの死虫数 約6,300匹</li> <li>被害規模は巣箱により異なる(最大規模の被害: 20箱/70箱)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>被害発生時期に周辺地域で農薬散布が確認されているが、散布場所と被害発生場所の距離が離れているため、農薬が原因か否かは判断できなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関への被害軽減対策の周知</li> <li>情報共有の徹底</li> </ul>
令和3年8月下旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>被害箱数 10箱</li> <li>1箱あたりの死虫数 約15,000匹</li> <li>被害規模は全ての巣箱で同程度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>周辺で栽培されている水稻は乳熟期であり農薬の使用は確認できなかったが、外部寄生ダニや蜂病の症状はみられなかったため、農薬が原因である可能性は否定できないと考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報共有の徹底</li> </ul>
令和3年9月下旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>被害箱数: 1箱</li> <li>1箱あたりの死虫数 約1,000匹</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本件被害の発生地域における農薬の使用状況等から、被害の原因として可能性が高いと考えられる具体的な農薬は認められなかったが、本件被害の原因が農薬である可能性は否定できない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>養蜂家及び農薬使用者への注意喚起</li> </ul>